

I 事業概要

1. 派遣期間 令和6年7月28日（日）～8月2日（金）

2. 派遣先 中華人民共和国上海市嘉定区

3. 派遣人数 高校生2名、引率者1名 合計3名

4. 研修日程等

日付	曜日	内 容
4月1日	月	派遣学生募集開始
4月26日	金	派遣学生募集締め切り
5月18日	土	面接試験（本庁舎12F）
6月1日	土	第1回派遣学生研修会（太田市南庁舎）
6月15日	土	第2回派遣学生研修会（太田市南庁舎）
7月20日	土	第3回派遣学生研修会（太田市南庁舎）
7月28日	日	成田空港から出国
8月2日	金	成田空港へ帰国（太田着）
8月20日	火	帰国報告会（太田市役所4階 庁議室）

5. 現地日程

日付	曜日	内 容
7月28日	日	上海市嘉定区到着
7月29日	月	開幕式、嘉定計画展示館見学、無形文化遺産体験
7月30日	火	自動車文化体験、STEMコース体験
7月31日	水	上海文化探訪、伝統劇鑑賞・体験、伝統工芸制作体験
8月1日	木	上海市内視察、閉幕式
8月2日	金	帰国

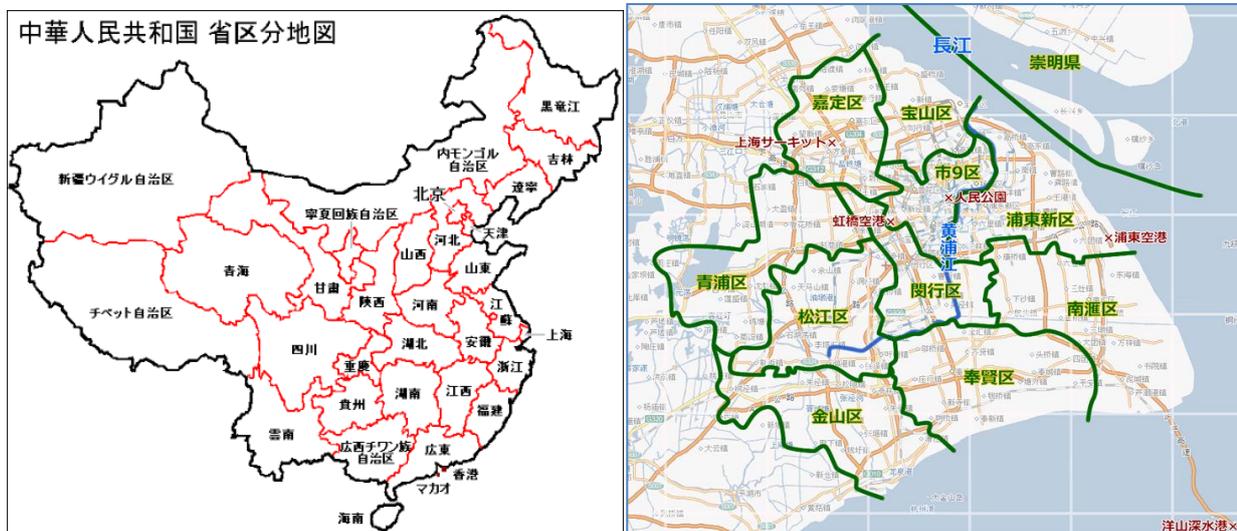
6. 参加国

No	国	都 市
1	日 本	群馬県太田市
2		鹿児島県霧島市
3	ニュージーランド	オークランド市ハウラキ区
4	ド イ ツ	ヴォルフスブルク市
5	韓 国	ソウル市江北区
6		ソウル市龍山区

7. 上海市嘉定区概要

上海市嘉定区は、上海市の北西部に位置し、面積は463平方キロメートル、人口は約183万人であり、人口は急増している。区名は、南宋の時代の年号（嘉定）からとった名称（嘉定県）で、2018年に建県（現在は区）800年を迎えた。「教化嘉定」として、教育と文化に力を注いでおり、歴史文化遺産も多数あり、昔から文化的有名人をたくさん輩出している。

自動車産業が盛んであり、フォルクスワーゲンの製造工場やボルボの生産本部や研究開発センターがある。部品製造企業や研究開発企業も多数ある。1958年に科学技術衛星都市として上海市から指定を受け、中国科学院の科学研究所が数か所あり、各種研究機構も多数ある。



Ⅱ 報 告

引率者

私は引率者として、7月28日から8月2日の日程で嘉定国際青少年友誼キャンプに参加しました。今回コロナウイルスの影響から5年ぶりの開催となり、4ヶ国6都市から参加者が集まりました。全ての都市が参加学生2名、引率者1名の構成でした。そこに現地の学生やスタッフ、カメラマンが同行し、毎日バス移動で行動をしました。

食事に関してですが、朝食は毎日ホテルにてビュッフェ形式でいただきました。中華料理を中心にパンやフルーツなども用意されていました。少しずつメニューが変わっていた点は良かったと思いました。昼食・夕食に関しては、スケジュールに合わせて異なるレストランで食べました。基本的には回転式テーブルの中国らしいスタイルで中華料理をいただくことが出来ました。ハンバーガーや肉料理など違うテイストの料理を提供してくれたお店もあり、全ての日で美味しくご飯をいただくことができました。

今回のキャンプでは、今までのキャンプと比較すると参加国・参加都市が少なかったかもしれませんが、少人数だったからこそ濃密で皆が和気藹々と過ごせたのではないかと感じています。学生たちの様子を見ていたところ、国籍問わず何人も集まって話しをしていた姿が多数見受けられたので有意義に過ごすことができたのではないかと思います。学生たちは夜ホテルに帰ってからもカードゲームなどで盛り上がり、時には引率者も交えてホテルから徒歩15分くらいのところにあったローソンに集団で買い物に行ったりもしました。

毎日違う場所での研修だったため新鮮な気持ちで過ごすことができました。自分たちが旅行で行くだけでは、施設で解説などもしてもらえないと思うのでとても貴重な経験が出来たと思います。現地の学生たちが一緒について来てくれたため、施設の案内人が中国語で説明したことを英語に翻訳して私たちに解説してくれました。今考えてみるととてもありがたいことであったと感じています。現地の学生たちがとても流暢に英語を話していたことも印象的でした。グローバル化が進んでいる現代で、日本においても青少年の英語教育に力を入れ英語を話すことが出来る人口を増やしていくことが課題であると改めて感じました。

キャンプが終了し帰国してからおよそ1ヶ月が経とうとしていますが、日に日にこのキャンプに参加させてもらえてよかったと強く感じています。出国前やキャンプ中は引率者として事故などが起きないように努めなければならないと常に考えていたため張り詰めていた自分がいました。しかし、帰国してキャンプを振り返ると一回り成長できた自分がいました。普段中々話すことの出来ない海外の人たちと英語で会話し語学力を向上出来たこと、引率者として普段以上に周りに目を配ったことでより視野を広げることが出来たことなど数多くのことを経験することが出来ました。コロナウイルスの影響もあり最近経験することのなかった直接海外に行ったからこそ触られる空気感も感じてくることが出来ました。

世界では現在も戦争や紛争が行われている地域があります。しかし今回のキャンプのような青

少年の交流の輪が拡散していくことが将来的な世界平和に繋がるのではないかと考えます。世界的視野を兼ね備えた次世代のリーダーの育成のためにも今後このキャンプが続いていくことを強く願っています。

最後にはなりますが、我々にこのような機会を与えてくださった市長をはじめとした関係者の皆様、出国前から帰国までの長い間サポートしてくださった国際課職員（国際交流協会）の方々、今回のキャンプに参加することを快く受け入れ協力してくださった所属先である建築指導課の皆様へ感謝申し上げます。今後も太田市の国際交流事業に貢献するとともに、今回のキャンプで培ってきたことを職場でも活かしていきたいと思っております。

以上で帰国報告とさせていただきます。ありがとうございました。

派遣学生

前橋女子高等学校 1年 女子

私はこの夏、中国の上海で行われた国際友誼キャンプに参加しました。このキャンプでは、世界中の国から生徒が集まり、中国の文化を体験することや、国際交流をすることを目的としています。今回のキャンプは参加国が少なく生徒は、日本、中国、韓国、ドイツ、ニュージーランドからの12人でしたが、それでも世界中の同世代とそれぞれの国のことなどを話し、お互いの国を知ることが出来ました。毎日、今まで体験したことのないようなことの積み重ねで、緊張や不安もありましたが、「国際交流」という言葉に込められた意味を実感することができました。

部屋の同室者は、韓国から来た高校1年生の女の子でした。二人とも英語は第二外国語にもかかわらず話し好きだったので、初めの夜からすぐに打ち解けて、まるで長年の友人のように英語で話し続けました。彼女も私と同じ夜型で、翌日のプレゼン準備のため、夜遅くまで一緒に奮闘することに。気づけば、話に夢中になりすぎてベッドの上で寝落ちしてしまい、夜中の1時に「まだ歯磨いてなかった！」と慌てて起き上がり、二人で眠そうな顔をしながら歯を磨く羽目になりました。アジアの「高校生」には似たところがたくさんあります。みんな話し好きで、勉強に忙しく、時間の使い方も同じです。（何しろ、ベッドで寝落ち、でも歯は磨かないと寝られない！まで同じだったので。（笑））そして、どんなに難しいことでも、ユーモアと明るさを持ちながら諦めずに取り組む姿勢が共通していました。そんな共通点を見つけたとき、どこの国でも高校生は同じなんだなと感じた瞬間でもありました。

滞在中、私は多くの中国文化を体験しました。伝統的な草を使ったストラップを作ったり、伝統的な服を着たり、さらには近代的な施設を見学する機会もありました。こうして、中国の古き良き伝統から現代社会までを時間を旅するのように感じる事ができ、本当に有意義な時間を過ごしました。中国はどの分野でも伝統を重んじながらも、世界のトップを見据えている姿勢が垣間見え、非常に感銘を受けました。さらに、中国からは3か国語を話せるリーダーや、世話役で選抜された

高校生のレベルの高さにも驚かされました。彼女たちのスキルや知識は本当に素晴らしく（博物館では何を質問しても流暢な英語ですぐに返答でき、知識の多さに圧倒されました！）国際交流の経験をより豊かなものにしてくれました。やはりホスト国で他国の方を迎え入れるには、「英語」は単なるツールでしかないことに気づかされました。自国の伝統を受け継ぎ、それを誇りに思い、そして知識豊富に分かりやすく説明できるように何事にも準備しておくことが大切です。簡単そうで、実際にはなかなかできないこの「心」は、長年の経験や勉強で培われたものでしかありません。今回、友誼キャンプのホスト役を引き受けてくれた同世代の高校生には感謝の言葉しかありませんでした。

そして何と言っても、バスやホテルで皆と話したことは今でも忘れられません。ホテルではカードゲームに熱中し、夜遅くまで様々な話題で盛り上がりました。もちろん、言語は英語です。初めは、特に日本の友達のように話題が合うかどうか不安でした。しかし、いざ会って話してみると、「高校生」という世代が共通しているおかげで、話すことが楽しく、どんな話題で盛り上がるかと心配せずに自然に会話ができるようになっていました。今回の旅を通じて、国際交流だけでなく、英語力や話題の振り方も向上し、確実に今後役に立つと思います。実は、私の英語力はオンライン英会話で磨いたもので、その成果を実感できたのも嬉しい経験でした。

また、外国の方と話してみると、私たちは国が違えども分かり合えることができました。育ってきた環境や価値観が異なる中で、互いの違いこそが興味深かったです。カードゲームをしながらも、「深い話」もありました。将来の夢、勉強の事、家族の事、宗教の話まで、この6日間に「カードゲーム」は皆の国境をなくし、世界を一つにしてくれました。さまざまな考え方や経験を共有し、理解を深めることができました。普段は、毎日勉強に追われているので「カードゲーム」は無駄なことだと思っていましたが（多分、私の両親も思っています！（笑））、実は、英語と同じように世界を一つにしてくれるアイテムなのではないかと、ハッとしました。ぜひ、小学生や中学生には、スマホゲームではなくカードゲームやボードゲームで、家族や友達とのコミュニケーション力を磨いて欲しいと思います！！

そして、今回の旅で気づいたことがあります。それは、外国人の積極性に圧倒されたということです。会話の際も率先して話題を振り、中心となって話していました。私もなるべく積極的に会話に参加できたと思いますが、あまりにも他の国の友達が積極的だったため、聞き役が多かったと感じます。それでも、外国の友達に刺激され、自分から率先して話すことが増えました。これからの国際社会において、自分の意見を言うことは非常に重要であると思うのですが、待っていては、誰も聞いてくれません。皆の意見を聞きながらも、自分の言葉のボールを投げることで、初めて自分の存在に気づいてくれるのです。グローバルな世界で生きていくことは、そういうことなのだと実感しました。

世界では宗教の違いなどで今でも戦争をしている地域があります。肌の色が違うために差別を受けている人もいます。だからこそ、今回の旅で中国の文化を違う国の子と体験できたこと、育っている国が違うのに仲良くなれたこと、その全てが奇跡のように思えます。この奇跡を幸運にも、中国政府、上海市の皆様のお力で体験でき、うれしく思っています。そして今後も、もっと色々な

ところでこのような輪が広がっていくことを願います。

(私達12人はまだ中国版 WeChat で繋がっています!!)

最後に、太田市国際交流協会の皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。色々な手配をして下さり、この度の国際友誼キャンプは私にとって大変貴重な体験となりました。この経験を将来に生かし、世界に還元できるよう努めたいと思います。ありがとうございました。

ぐんま国際アカデミー 高等部3年 男子

私にとってこのキャンプが初めて中国に行く機会だったので、街並み、食事、習慣、言語などのあらゆる要素は私にとって新鮮で新しく、中国について多くのことを学ぶことができました。また、中国には日本に加えてドイツ、韓国、ニュージーランドの4カ国が参加しており、どの国も日本と多くの点で異なっていたため、まだ訪れたことのない土地について多くのことを知ることができ、これも非常に良い経験でした。振り返ってみると、中国での滞在はたったの6日間であったとは思えないほど多くの体験や思い出が詰まっています。この報告書では自分が見聞き、感じたことなどを少しでも共有できたら幸いです。

初日は中国行きの飛行機の遅れが生じ、午後6時半ごろに空港に到着しました。ターミナルから入国審査の場所へ移動する際に空港専用の地下鉄が使われていたのは新鮮でした。入国審査後、6日間付き添ってくれた中国の学生が誕生日プレゼントとしてバラの花束を渡してくれました。空港からホテルに向かう間、中国の街並みを見て印象的だったのが建物の外見です。中国では多くの建物がまったく同じ外見で建てられており、日本と大きく異なる要素だと感じました。

中国での2日目は午前中に開会式があり、自身の国について嘉定区の副区長の前で発表する機会がありました。太田市は上毛かるたに触れながら人口、地形、スバル、達磨、こんにゃくや温泉などについて発表しました。ぷるんと蒟蒻ゼリーは好評で特に抹茶味などが人気でした。発表後、中国の伝統文化を体験する機会がありました。左は伝統的な手法で染められた布(藍染め?)で作られたぬいぐるみに綿と虫よけの匂い袋を詰めて人形を作る体験の写真です。右は藁を編んで鞆のチャームを作成する講座であり、藁製品を作る文化は日本に似ていると感じました。

中国での3日目は車の博物館で歴代の車を見て、その後自動運転を取り入れている車に実際に乗せてもらいました。中国ではすでに無人の車両が一部実験的に導入されており、実際の道路を車が自動で走行し、信号なども規則通りに移動する姿は非常に新鮮な体験でした。

中国での4日目は中国の古代の遺跡や土器などの博物館を見学しました。土器や遺跡などは日本の古代時代に近い要素が多くありルーツの近さなどを実感しました。

その後、中国の古代時代から近代までの街並みを再現した施設を見学し、伝統的な服装や建築

などを知ることができました。その日は珍しく洋風のレストランで食事をしました。

午後は伝統的な中国の劇の着物を着て写真撮影をしました。また、銀細工の職人から銀の指輪の作り方を学び、実際に作成を体験しました。夕食は演劇とレストランが融合した施設で取りました。唐の時代に来た海外の使者のもてなしを体験することができ、非常に楽しかったです。

中国での最終日は観光やお土産がメインでした。午前は上海タワーを上り、午後は中国の明代の庭園の観光や南京路でお土産を購入しました。午後はクルーズ船で閉会式を行いました。それぞれの国が歌、踊り、特技などのパフォーマンスを披露し、改めて違う文化を再確認できました。ニュージーランドはマオリ語で伝統的な曲を歌い、韓国は K-pop のダンス、ドイツの学生もダンスを踊っていました。

中国の思い出の半分はほかの国の学生との交流で生まれました。ホテルに帰った後、毎晩部屋に集まってカードゲームを遊びながら自分の国について語り合い、それを通して日本と大きく異なる文化であったり似ている問題などを知ることができました。人口減少と高齢化、土地の高騰などが日本以外のほかの国でも問題であることを知ったのは意外でした。また、日本と異なる文化として徴兵制度、学校や教育の競争の激しさ、運転や飲酒の年齢制限、LGBTQ に対する寛かさなどがあり、これらについてそれぞれの考えを話し合えたり考えを聞けるのは非常に面白い体験でした。

中国に行って意外だった文化や習慣などもいくつかありました。街並みでいうと自動車と 2 輪車の道が分かれていること、防犯カメラが多く場所に設置されていることなどがありました。食文化では取り箸がない場合があることが印象的でした。食事は米類、肉炒め、麺類、など日本に近い要素がありましたが、思ったよりも脂っこい料理が多そうでした。スーパーやコンビニではハイチューなどの日本の菓子などが多少おいてありました。購入の際にレシートは聞かなければ渡されないようです。また、大きな違いとしてセキュリティの強さもあります。日本よりも防犯カメラ、荷物検査や歩行者天国での警官のパトロールが多いように感じました。

中国及び他の国の学生との交流をへて、ほかの国や言語を学ぶことにさらに興味を持ち、今後も学びを続けて行きたいと思うようになりました。また、新たな気づきも多くありました。中国に実際に行ってみて技術力が非常に進んでいることを実感し、自動車技術やインフラの面では日本よりも進んでいるように感じました。また、異なる環境に滞在することで日本の衛生面の高さにも改めて気づききっかけになりました。

次の代に向けたアドバイスとしてカードゲームを持っていくことをお勧めします。ホテルでは UNO や Schimmeln (31) というカードゲームで遊びました。Schimmeln (31) はドイツの学生が紹介してくれたゲームで通常のトランプのデッキで遊べるのでおすすめです。また、大人数で Schimmeln (31) で遊ぶ場合はトランプが 2 組必要です。トイレにトイレットペーパーがない場合があるので流せるポケットティッシュは必須です。持って行った金額ですが、私は空港で 1 万円

2024 Jiading International Youth Friendship Camp

を 430 元ほどに両替し、最終的に 370 元ほど使用しました。ホテルでも両替はできますので初日で多くを両替する必要はないと思います。気候についてですが、40℃を超える猛暑の中を観光する場合もありますので、日焼け止めや帽子を持っていくことをお勧めします。

ホテルの部屋の写真です。また、ベッドの間の机の下には火事の際に着用することができる防毒マスクが設置されており、新鮮でした。

最後になりますが、主催してくれた嘉定区の皆様と出発の準備を手伝ってくれた太田市国際交流協会の役員方、非常に良い経験をさせていただきありがとうございました。